

◆NEW

株式会社インプレスR&D

インターネットメディア総合研究所が6～7月にかけて実施した出版社へのアンケート調査の結果が発表された。それによると、今後もっとも力を入れていきたい電子書籍の販売チャネルは、なんと「アマゾンKindle」になった。黒船と恐れているにもかかわらず、やはりアマゾンが上陸したら「やるしかない」と思っているようだ。次いで、7月19日にサービスを開始した楽天の「kobo」、大日本印刷の「honto」となっている。

今後もっとも力を入れていきたい電子書籍の販売チャネル

1位	Amazon Kindle	60% (13%)
2位	楽天kobo	57% (4%)
3位	honto	42% (66%)
4位	App Store	38% (64%)
4位	紀伊國屋BookWebPlus	38% (53%)
6位	iBook store	30% (0%)
7位	BookLive!	28% (49%)
7位	Google Play (旧Android Market)	28% (17%)
9位	eBookJapan	21% (32%)
9位	Google ebookstore	21% (2%)

注) カッコ内はすでに取り組んでいる割合

では、実際、どんなジャンルの本が電子書籍化されているかという、以下のようにになっている。ビジネス（+5%）、文芸小説（+4%）などが、昨年より伸びているが、微増にすぎない。

今年もっとも多く電子書籍化した書籍のジャンル

1位	趣味・実用・ガイド	47% (51%)
2位	ビジネス	42% (37%)
3位	その他	38% (27%)
4位	コミック	34% (31%)
5位	文芸小説	28% (24%)
6位	エッセイ・論評	26% (29%)

7位 ノンフィクション 21% (29%)
8位 写真集 17% (20%)
9位 語学・資格・検定・教育 15% (20%)
10位 ライトノベル 13% (12%)
10位 アダルト・官能小説 13% (24%)
10位 趣味専門雑誌 13% (12%)
注) カッコ内は 2011年のデータ